

の集会の目玉を何にするかを決めさせます。

もち寄ったものは様々ですので、それぞれの意見を出し合わせ、班としてどの内容を推薦するかを決めさせます。

(4) 生活班で原案を作る。

前号で述べた原案の書き方を参考にさせ、班で作らせます。

<同じ内容を考えた子供同士のグループを生かすやり方>

(3) 同内容グループで具体的な計画を考える。

同じ内容を考えた者同士でグループを作り、より具体的な計画を考えさせます。考えた内容が同じものなので、やり方やルールなどを比較し合い、よりよいものにしていきます。

(4) グループで原案を作る。

前号で述べた原案の書き方を参考にさせ、班で作らせます。

こうすることによって、一つのイベントに対して、班（内容）の数だけ原案が出来ることとなります。

この後、全部の原案を検討していくこととなります。この進め方は、原案の大切さに気づかせることができるという利点はあるものの、時間がすごくかかります。しかし、一度は全員に原案づくりの経験をさせたい場合には、取り組んでみる価値はあります。

2 話の聞き方を考える

新学期が始まって早一ヶ月、あっという間に4月も終わろうとしています。

さて、子どもたちとの関係づくり、うまくいっていますか？

今回は、子どもたちとの距離感を縮めるための「話の聞き方」についてまとめてみます。

子どもの話を聞くときに大切なのは「あいづち」です。子どもたちがもっと話したいと思うようなあいづちにはどのようなものがあるのでしょうか。

1, 共鳴するあいづち

「そう、よかったね」「うんうん」「うまくいったね」

2, 同意するあいづち

「なるほど、それは大変だったね」「よくわかるよ。本当にそうだね」

3, 身ぶりあいづち

アイコンタクト、スマイル、うなづき、手振り など

4, 促しあいづち

「それからどうだったの」「それはうまくいったね。そっちはどうだった」

5, まとめあいづち

「つまりこういうことかな」「こういうことをいいたかったのかな？」

「その面から考えたんだね」

逆に、子どもたちの話を閉ざすものもあります。

1, 詰問あいづち

「何だってもう一度」「それからどうした」「はっきりしなさい」

2, さえぎりあいづち

「ちょっとまで、問題が違う」「それは別のことだろ」

3, 見捨てあいづち

「ほかに」「別の意見は」「ちがう」「それだけ？」

4, 否定あいづち

「いや、そんなことはない」「ダメだ」

5, 疑いあいづち

「そんなことはないだろう？」「なぜそんなことがいえるの？」

「どうしてか言ってみなさい！」「さあね、まさか」

6, せかしあいづち

「それから」「じゃ、次」「早く言って」

時と場合によって、これらのあいづちを使い分けることも必要なことがあります。大切なことは、子どもが何を言いたい、伝えたいと思っているのかをしっかりとくみ取ろうという気持ちをもつことだと思っています。

ここで「上手な聞き手」となるポイントをまとめてみました。

1, 公平な気持ちで聞いていますか。

2, 関心・興味を示して、子どもに寄り添って聞いていますか。

3, 肯定的な思いで聞いていますか。

4, 気持ちにゆとりをもって聞いていますか。

5, 先入観を捨て、謙虚に聞いていますか。

6, おだやかな気持ちで聞いていますか。

7, 固定観念にとらわれずに聞いていますか。

8, 子どもの声の変化に耳を傾けて聞いていますか。

9, 表情や動作の変化に気をつけて聞いていますか。

10, 子どもの気持ちに素直に共感して聞いていますか。

3 メルマガ編集部からのお知らせ

◆次号の予告◆◇◆

第57号は5月上旬ごろ発行予定です。

次号の特集も、集会活動の企画についてお知らせします。

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は225名です。どんどん読者が増えてきています。嬉しい限りです。これまで以上に内容を充実させていく必要を感じています。もっともっとメルマガ仲間が増えるといいなと思っています。お知り合いの方にこのメルマガを紹介してください。登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆内容の充実について◆◇◆

このメールマガジンでは、読者のみなさんのニーズに応える紙面作りに取り組んでいこうと思っています。こんな内容について書いて欲しい。こういう情報が欲しい、ということをお知らせください。

sugi-net@c-able.ne.jp

本年度中に特別活動の年間計画をつくる必要があります。そのあたりについても可能な限り書いていこうと思います。

◆実践投稿のお願い◆◇◆

読者のみなさん、みなさんが取り組まれている情報を送ってください。特活の実践を広げ、共有していきましょう。

5月には、大型連休があります。連休明けにどんな学級づくりを行ったらいいか、悩むところです。子どもたちにどういいう声かけをしたらいいか、学級でどういいう取組をしたらいいか、その実践について情報交換できたらと思います。先生方が取り組んでおられる実践を紹介してください。

以下のアドレスまでよろしくお願ひします。

sugi-net@c-able.ne.jp

=====
山口学級活動ネットワーク メールマガジン
☆ご感想・ご意見はsugi-net@c-able.ne.jpまで
☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部
梶田崇晴（山口市立平川小） 津村元文（美祢市立伊佐小）
能勢雅子（山陽小野田市立高千帆小） 吉田哲朗（山口大学附属山口小）
=====